

## 3.14 令和4年度 リサーチ・クラークシップ成果発表会を開催しました

医学科2年生を対象に、学内の研究室及び学外の大学・研究機関で研究室配属実習を行う「リサーチ・クラークシップ」を1月4日(水)～3月14日(火)の約10週間実施しました。本科目は、学生自ら直接専門領域の研究内容に触れ、さらには高度な実験科学の進め方を実際に体得することによって、研究活動の意義及びそれを支える研究者の心を理解して research mind を培うことを目的としたプログラムです。科学的探究心の醸成と広い視野を持つ人材の育成を目的に、本来は、海外にも学生を派遣していますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、学内55教室及び国内の22機関に学生を受け入れていただきました。最終日には、10班に分かれて実習成果の発表を行いました。



成果発表会 優秀賞受賞者の表彰式

消化器・総合外科学講座の庄雅之教授のご紹介で、九州大学病院別府病院外科の三森功士教授のもとで2か月間、「肝細胞癌の新規ドライバー遺伝子の同定と作用機序の解明」をテーマに勉強させていただきました。私は今まで、研究についてあまり興味がなかったのですが、リサーチ・クラークシップを通して、臨床の場において治療に選択肢があるのは、基礎研究を積み重ねた結果であることを実感し、研究の重要性について改めて考えさせられました。この機会をきっかけに、より一層勉学に励みたいと考えています。

最後になりますが、九州大学病院別府病院外科での研究の機会を与えてくださった庄教授、三森教授はじめ関係者の皆様、そして未来への飛躍基金には本当に感謝しています。ありがとうございました。

(前列左から2番目 宮下 実羽さん)

解剖学第二講座では、2年生までの授業では入ったことのなかった動物実験室でマウスを使って研究しました。研究は初めてだったので、マウスの行動を観察する、行動実験をすることで研究に慣れていきました。ある程度研究に慣れた頃に、免疫染色やPCRなども行いました。難しい実験も先生が丁寧に教えて下さったため、研究に慣れるという意味では最高のリサーチ・クラークシップとなりました。成果発表会資料の作成や発表の準備についても助言をもらうことができました。本リサクラを通して研究の基礎を学ぶことができ、貴重な体験をすることができました。

(前列左から3番目 中里 伸太郎さん)

今回のリサーチ・クラークシップでは、免疫学講座の伊藤利洋先生のご紹介で、奈良先端科学技術大学院大学の河合太郎先生の研究室で実習をさせていただきました。

2ヶ月半の間、研究室の先生方や先輩方に丁寧に実験の指導をしていただき、研究の楽しさと結果が出たときの喜びを実感することができました。それと同時に、実験の準備段階だけでもかなりの期間を要したことや満足いく結果が得られないことが何度かあったことから、2ヶ月半という限られた期間では「研究」は満足にはできないと痛感しました。

もともと臨床医になりたいという思いで医学部に入りましたが、リサーチ・クラークシップを通して、将来医師となった際には臨床だけでなく研究にも目を向けていこうと思うようになりました。

2年生という早い段階でこのような密度の濃い研究生活を送ることができたのは、受け入れてくださった研究室の先生方だけでなく、リサーチ・クラークシップを企画して下さった学内の先生方のおかげだと思っています。この実習で得られた経験を糧により一層勉学に励んでいく所存です。この度は本当にありがとうございました。

(前列右端 和泉 敦士さん)

本年度のリサーチ・クラークシップは、学内55教室、学外22教室のご協力のもとに、無事に終了することができました。成果発表会では、審査委員を悩ます優れた発表も多く、学生の皆さんのポテンシャルの高さと本科目を通しての成長を肌で感じました。本科目は、ともすると膨大な暗記や試験勉強に終始しがちな医学部の学生生活の中で、アカデミックな探究心の醸成に潤沢な時間を注ぐことのできる、大学らしい教育の場と考えております。写真の学生さんたちの生き生きとした表情を見て、さらに実りのある科目にできるようにと、気持ちを新たにしております。今後とも、諸先生方のご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

(科目責任者 堀江基礎教育部長)